

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

事業名 GAPチャレンジ推進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部農産園芸課ぎふ清流GAP推進係 電話番号：058-272-1111(内2868)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,000 千円 (前年度予算額：8,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,000	4,000	0	0	0	0	0	0	4,000
要求額	8,000	4,000	0	0	0	0	0	0	4,000
決定額	8,000	4,000	0	0	0	0	0	0	4,000

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・将来にわたって食料の安定供給を図るために国が「みどりの食料システム戦略」を策定し、持続可能な食料生産の基盤となるGAPの取組みの普及は急務となっている。
- ・令和2年度に農業者が取り組みやすいGAP制度として、県が国際水準GAPに準拠した109項目について農場評価する「ぎふ清流GAP評価制度」を創設した。
- ・ぎふ清流GAP評価制度は、令和3年度9月に終了した岐阜県GAP確認制度より評価する項目が多く、農業者が高い評価レベルを達成するには、食品の安全性を高めること等に必要な施設改修や備品の導入、また残留農薬等の検査が必要であり、負担が大きい。
- ・ぎふ清流GAPの認証者を増やすためには、これらの負担を軽減し、農業者が取り組みやすくする必要がある。

(2) 事業内容

①GAP実践条件整備支援(8,000千円)【県単補助金事業評価調書】

- ・「GAP実践」に必要な生産出荷施設の改修や備品の購入、残留農薬検査や水質検査の実施を支援する。

事業実施主体：GAPを実践する農業法人、農業者の組織する団体、農業者

(3) 県負担・補助率の考え方

- ① 県1/2以内（施設改修、備品整備、残留農薬検査、水質検査）

(4) 類似事業の有無

国際水準GAP認証取得支援事業補助金(農産園芸課)

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	8,000	施設の改修や備品の購入、残留農薬検査や水質検査の費用
合計	8,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略（施策編）
 - 3 地域にあふれる魅力と活力づくり
 - (1) 地域の魅力の創造・伝承・発信
 - ④ 「ぎふブランド」づくり
- ぎふ農業・農村基本計画
 - (2) 安心して身近な「ぎふの食」づくり
 - ② 安心と信頼を届ける農畜水産物の生産展開

(2) 国・他県の状況

- ・ 国令和12年度目標：ほぼ全ての国内産地で国際水準のGAPを実施
- ・ 近隣県は同様の予算はない。
- ・ 国策定の「みどりの食料システム戦略」の具体的な取組みにおいて、本事業の主旨に沿った「高い生産性と両立する持続的生産体系への転換」及び「労働安全性・労働生産性の向上と生産者のすそ野の拡大」が位置づけ。

(3) 事業主体及びその妥当性

- ・ GAP（農業生産工程管理）は農業者が実践するものであるため、支援を行うことで、県内生産者へGAPが普及・定着する。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	G A Pチャレンジ推進事業費補助金
補助事業者(団体)	農業法人、農業者の組織する団体、農業者 (理由) G A P (農業生産工程管理) は農業者が実践するものであるため。
補助事業の概要	(目的) G A Pの推進 (内容) 「G A Pをする」に必要な生産出荷施設の改修や備品の整備に要する経費を支援する。
補助率・補助単価等	定率 (内容) 1/2以内、上限額1,000千円 (理由) 前年度と同水準。
補助効果	県内農業者にG A Pの取組みが普及・定着する
終期の設定	終期 令和7年度 (理由) 「ぎふ農業・農村基本計画」の令和7年度の目標達成に向け、G A Pの定着を図る上で、環境整備の支援は不可欠である。

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか ぎふ清流G A Pの実践率を令和7年度までに35%に増加させる。</p>

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H29)	R2年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
①G A Pを実践する担い手(経営体)数	41	252	1800	(R3から②に移行)	-	
②ぎふ清流G A Pの実践率	-	0%	15%	25%	35%	

補助金交付実績 (単位：千円)	H30年度	R元年度	R2年度
	10,881	8,131	5,758

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> 補助件数18件に対し、農薬保管庫、防虫ネット等の備品購入や、手洗い用シンクの設置、床塗装等の施設改修、残留農薬及び水質の検査費用等の補助を行った。 令和3年10月末現在で補助を行った6戸の農業者がJGAP又はぎふ清流GAPの認証を取得している。
	指標① 目標：1800 実績：252 達成率：14%
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____%

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	県民の「食の安全・安心」や環境保全への関心が高まり、また持続可能な農業の実現には、農業現場におけるGAPの普及は重要となっている。
<ul style="list-style-type: none"> 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満) 	
(評価) 2	ぎふ清流GAP認証者は期待通り増加しており、引き続き制度を推進していく。
<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 1	計画承認、交付決定等を農林事務所に事務委任することで、現地の実情に即した効率的な事業の実施を可能としている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> 事業が直面する課題や改善が必要な事項 今後、農業者の組織の取組みが増加することが想定され、それに伴い要望額に対応できない可能性がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 国の目標に呼応し、令和12年度までに県内ほぼ全ての産地で国際水準のGAPを実施している状態とするためには支援が必要。
--